

日高市子ども読書活動推進計画（第3次）（案）に対する市民コメントの募集結果

意見募集期間：令和4年12月22日（木）から令和5年1月20日（金）まで		
人数及び意見数：意見提出者7名（提出意見35件）		
No	寄せられた意見	市の考え方
1	<p>読書家を増やす方法は、まず、綺麗な本を増やして手にとってもらうことから始めないといけない。せっかく興味を持って本を手にとっても、たとえば染みだらけだったり虫がわいているような本だとしたら、トラウマになるからである。古い本や難しい漢字の使われた本は、その旨を検索段階で示す必要がある。たとえば、漫画の名作、はだしのゲンやカムイ伝などの在庫が日高市の図書館にはあるが、極めて保存状態が悪い。こうした本は、いっそ、新しく買い直すべきである。絵本の名作、ぐりとぐらなども、新しく買い直すべきである。つまらないよくわからない新作を買うより、古典的ともされる昭和の名作、漫画や絵本も含む名作をまず新しく買い直すべきである。まず、綺麗な本に触れさせる。すべてはそこからである。中身は当然大切だが、まず外見や手にとった感触が大切である。よく言われるデジタル化はいずれすたれるので、対応不要である。紙の綺麗な本。まず、そこからである。</p> <p>なぜなら、どんな時代も、まず、安全に気持ちいい家、服、食事が必要だったし、未来永劫、必要だろうからである。本が必要なものとしてそこに置いておかれるためには、外見や手触りが必要になる。インテリアにもなるような本。中身はその次と言って良い。導入さえ突破すれば、あとは、本の世界は自己増殖する。ほおっておいてよい。歌番組などでも、昭和の歌が再評価されるように、令和になっても昭和の文化は通用している。海外でも評価されている。その事実を重く見るべきである。その点、たとえば村上春樹や吉本ばななや山崎豊子といった本が、なかなか図書館の本棚に並んでないのはいかがなものか。名作は、綺麗な本として、数冊揃える。これも大事である。中身の検討は、よほど偏らない限り、力をかけなくても良い。その類のアンケートは昔から多いので、それを利用すればいい。繰り返しになるが、大事なものは、外見や手触りである。インテリアにもなるような本。そこから始めるのが、令和流である。</p>	<p>子どもが本に親しみ、身近に感じる環境を作るためには、ご意見のとおり、図書館の基本図書やお薦め本は複本で揃え、計画的に買換え、良い状態で提供することが大切です。多くの子どもが良質な本に出会える環境づくりを目指します。</p>
2	<p>読書家を増やす方法は、まず、綺麗な本を増やして手にとってもらうことから始めないといけない。そのことをまずクリアした上で付け加えるとしたら、歴史や世界地理との連動を体感させることが大切である。たとえば、これほどウクライナやロシアが問題になっている現代、そこに重点をおいた特集を、きちんと予算をかけて実施する。新しい本を買う中には、トルストイやドストエフスキーの古典的名作も含める。今、日高市の図書館にあるトルストイやドストエフスキーを手にとったことはあなたにあるだろうか？それは、令和のこどもに手にとってもらえる本だろうか？この観点から、図書館の在庫を見直すべきである。素晴らしいラインナップが、日高市の図書館には揃っている。私の読者手帳は13冊目に入る。日高市に来てまだ5年か6年だが、日高市の図書館のラインナップに文句はない。どこに出して恥ずかしくないと思っている。何も、大学図書館や国立図書館と競う必要はない。ただ、問題は、古い本が多いことだ。名作は新しく買い直す。その勇気が、欲しい。</p> <p>今、話題になっていりことを図書館の立場から、よく言えばより深く考えていく、悪く言えば利用する。新しい本を買う。その方向は、今、話題になっていることでも良い。</p> <p>テレビドラマと連動させても良い。いくらでも、アイデアはあるだろう。大切なのは、新しく買い直す勇気だ。名作は新しく買い直す。これしかない。</p>	<p>子どもが本に親しみ、身近に感じる環境を作るためには、ご意見のとおり、図書館の基本図書やお薦め本は複本で揃え、計画的に買換え、良い状態で提供することが大切です。多くの子どもが良質な本に出会える環境づくりを目指します。</p>
3	<p>はじめに～</p> <p>「子どもの読書活動の推進に関する法律」が策定された流れの中で、意識しなければ気にも留まらないのかもしれませんが、「日高市子ども読書活動推進計画」の中に繰り返し出てくる推進という言葉に対して、市民としてかなりの違和感を感じます。（行政間の文章のやり取りでは普通に使われるのでしょうか）</p>	<p>「推進」の用語につきましては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく市町村の責務として掲げられていることから使用しています。</p>

No	寄せられた意見	市の考え方
4	<p>(第1章計画策定の趣旨 1 計画策定の目的)</p> <p>「読書活動は子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かすことのできないものです。子どもは本との出会いの中で、楽しみながら自然に、他人を思いやる心や人生の知恵を学びます。また、幼児期の読み聞かせは心の発達に大きな影響を与え、その後の子どもの心の健全な成長を促すこととなります」</p> <p>素晴らしい内容です。豊かな人生を送るために読書がもたらすものについての理想が描かれています。これを実現するためにできることは？ 期待が膨らみます</p>	<p>ご意見のとおり目的に到達するよう、基本目標、基本方針に基づき、子どもの豊かな読書体験を支える環境づくりを進めていきます。</p>
5	<p>(第2章 子どもの読書活動推進のための基本的な考え方 1 読書を楽しむ子どもが育つための家庭・学校・地域の環境整備)</p> <p>この項目の中に、第2次では「図書館」と記載されていた内容が「市立図書館や学校図書館」と具体的に記載されたことにより、それぞれの特徴と果たす役割が明確になったと思います。特に学校図書館は子どもが自発的に本に手を伸ばすことができるハードルの低い環境です。どんな子どもにでもチャンスが与えられます。ハンディキャップのある子どもたちへの環境整備も急がれます。</p>	<p>市立図書館では、「りんごの棚」を設置し、点字図書、LLブック、オーディオブック、布の絵本等を収集し、特別なニーズのある子どもに向けた読書環境の整備を進めています。</p> <p>学校では、市立図書館と連携し、学校訪問おはなし会等の読書活動に関する支援を受けている他、市立図書館から図書を借り、児童生徒が様々な図書を読むことができる環境を整備しています。</p> <p>また、児童生徒が進んで学校図書館に出向き、様々な図書に興味関心を持っていただけるよう、幅広いジャンルからの選書に努めます。</p>
6	<p>(第3章 第2次計画策定以降における取組・成果と課題 2 学校における子どもの読書活動の推進)</p> <p>課題として、第2次の時と比べて、本の充足率は向上しましたが、学校の図書館の運営は片手間に成り立つものでもなく、現在の小中学校教諭の働き方が改善されないまま司書教諭に一任されているのは、酷な気がしています。本の整理は図書整理員さんにお任せできるとしても、本と子どもを繋ぐ役割は、その場にある程度の専門知識のある大人が存在することで成り立ちます。子どもの話に寄り添い本の世界へ誘う人材が必要です。</p>	<p>ご意見のとおり、図書に関する知識を持っている教職員がいることで、学校図書館の利便性の向上、利用数の増加につながると思います。図書担当教員や図書整理員を中心に、学校全体で読書活動の推進、効果的な学校図書館の活用方法の共有に努めます。</p>
7	<p>(第4章 子どもの読書活動推進のための取組 2 学校における子どもの読書活動の推進)</p> <p>アンケート結果から見てきたこととして</p> <p>「本と出会う機会が少ない子どもも、学校に入学すると様々な読書活動や調べ学習で本に親しむ機会が増えていきます。学校は、より多くの子どもに読書の喜びを伝える大切な場所であり、学校教育は読書が子どもの人間形成や情操を育て、豊かな知識の宝庫であることを子どもに理解させ経験させる上で重要な役割を担っています」と結論づけています。</p> <p>読書をするという経験値を積み重ねる場所としての学校の重要性を理解した上で</p> <p>現場の職員の方々により、多くの取り組みがなされていることも承知しています。</p> <p>大事なことは、本を読む楽しさを子どもに知ってもらうことです。教育として読書指導などと言われただけで、楽しい気持ちは萎んでしまうかもしれません。子どもが自分で自由に選んで読んでみることで、図書館へ行きたいと思えるような工夫も必要になります。ハード面だけでなく、時間的な余裕も。昼休みだけでなく中休み、放課後、あるいは授業中でも。寄り添う大人が必要です。ついでに調べ学習においてインターネットの活用は必須かと思っています。ルールは必要ですが。</p> <p>目指すは、礼儀正しい子どもの生産ではなく、学力を上げることでもなく、人生の扉を開ききっかけに、あるいは豊かな人生の道連れになるかもという希望を。</p> <p>何度も何度も、「第1章 計画策定の趣旨 1 計画策定の目的」のところに戻って、「日高市子ども読書活動推進計画〔第3次〕」を作成していただけたらと思います。未来を担う子どもたちのことをかかって子どもだった大人としてそのことを願います。</p>	<p>児童生徒が本を読む楽しさを実感すると、多くの知見を得るだけでなく、児童生徒自身の豊かな将来形成につながると思います。</p> <p>読書を強制的なものにはせず、児童生徒が主体的に読書する習慣が身につくよう、学習活動の中で様々な工夫改善に取り組んでいきます。</p>
8	<p>P5 お話しポケット</p> <p>楽しい試みがずっと続いているのは素敵です。</p>	<p>図書館ボランティアの協力をいただき、継続できるよう努めていきます。</p>

No	寄せられた意見	市の考え方
9	P17 学校との協力関係 大変良いと思います。	市立図書館、学校図書館が連携・協力し、学校訪問おはなし会等の取組を継続できるよう努めます。
10	P19 子どもの読書活動の推進 先ず身近にいる大人が読書を楽しんでいることが大切だと思います。それによって、子どもたちの興味や関心が呼び起こされるでしょう。	ご意見のとおり、身近な大人が本に親しむことは大切だと考えます。親子、大人対象の講座やおはなし会等を通じて、読書の大切さを伝え、理解を深めるよう努めます。
11	P20 蔵書の充実 図書館に行けば、読みたい本を手にとれるということは何よりも大切な要素ではないでしょうか	多くの子どもが良質な本に出会える環境づくりに努めていきます。
12	P21 子ども読書の日 さまざまな試みが出来ると思いますが、大人からの上からの目線ではなく、楽しめることを！	子ども読書の日から始まる子ども読書週間には「子どもウィーク」として、主に親子対象に「キャンドルナイトおはなし会」「人形劇」「企画展示」等、家族で楽しむ企画を実施しています。今後も工夫して楽しく本と出会える機会をつくっていくよう取り組んでいきます。
13	P23 ビブリオバトル 老いも若きも共に熱く語り合える場として、重要な役割を果たしていると思います。	「人を通じて本を知る 本を通じて人を知る」ビブリオバトルは市立図書館の基本方針「本との出会い、人との出会い」にも合致し、又、YA世代が多く参加し、本を通じて様々な世代の交流の場となっています。ご意見のとおり、重要な役割を果たしていると考え、より多くの人に周知されるよう進めていきます。
14	1. 本計画（案）全体（文言、表現）について 本計画は行政が策定するもので公用文に該当します。公用文の作成に当たっては基準やガイドラインがあります。 ①正確に書く、分かりやすく書く、気持ちに配慮して書く。本計画は、市民、教育関係者が読み手になると思いますが、特に市民にとって分かりやすくなるよう仕上げてほしいと思います。 ②常用漢字表に原則拘束されます。平仮名が妥当かと思われる言葉の表記については、よく検討ください。 ③送り仮名の記載も難しい言葉があるので、十分注意してください。 ④ほかの計画書などから引用した言葉はそれを尊重するかたちとなると思いますが、引用元が分かるように配慮してください。 ⑤「など」、「等」が多く散見されます。本当に必要かどうかよく見てください。	表現や用字・用語について再度確認し、修正を行います。
15	2. 本計画の推進について 基本目標と3つの基本方針が定められました。様々な施策があり、取組が展開されると思います。少子化時代で、幼児、児童、生徒の人数は減少しています。しかしながら、ソフト事業ではありますが、相応の費用も要すると思います。本市の財政状況も大変厳しく大変だと思いますが、費用対効果を考えて取組を推進してほしいと思います。基本方針にありますよう家庭・学校・地域が強い連携体制を構築しながら、子どもの読書活動が推進されることを期待します。	限られた財源を効率的かつ効果的に活用し、子どもの読書環境の整備の取組を進めていきます。
16	3. 市民コメント実施の周知について 今回の市民コメントについては、令和5年1月号広報ひだかで知りました。終了期日の記載だけで、開始期日は記載されていませんでした。ホームページで、12月22日からスタートしていたことを知りました。日高市市民参加条例では「市民は、まちづくりの主役として積極的に市政に参加し、市民の意向が市政に反映できるようにすることが大切です。」と規定されています。市民コメントは重要な位置付けです。本来であれば、この期間で実施するのであれば、令和4年12月号の広報に掲載する、または、1月号に掲載し開始時期を後ろにされればと思います。計画策定の中で綿密にスケジュールを検討して、広報掲載のタイミングを逸しないようにしてほしいと思います。ネット社会とは言いますが、市民にとって、広報ひだかは重要な広報手段です。	ご指摘のとおり、広報紙「広報ひだか」が重要な情報を届ける発信手段となっているため、今後市民コメントを実施する際には、あらかじめ実施期間を周知するよう広報紙への掲載を実施していきます。
17	P 1 (社会的な問題にもなっていると思うので緊急的なこともあるのかなと思い記してみました。補足です。) これらの環境の変化は社会的な問題となっており、子どもたちの成長に大きな影響をもたらしていることは周知のとおりです。子どもたちのよりよい成長を促すため市における読書推進は欠かせないものであり、現代の社会環境を考えると読書環境の推進充実は緊急な課題です。	貴重なご意見として承ります。

No	寄せられた意見	市の考え方
18	<p>P 6 （学校図書館は資料学習や読書、知的活動だけでなく、自由に利用ができて心安らげる場所でもなければならぬ ） 学校におけるこどもの読書活動の推進</p> <p>学校図書館の果たす役割は大きく、学習活動に欠かせないものです。 学校図書館が学校時間内には自由に利用ができ、心安らげる場所であり、また知的活動を満たしてくれる学校図 書への配慮が必要と思います。</p> <p>（現状として学校図書館はいつでも児童生徒が利用できるように開架しているのでしょうか？）</p>	<p>読書は、子どもの人間形成や情操を育て、豊かな知識の宝庫であることを子どもに経験させ るうえで、重要な役割を担っています。 学校図書館は管理上、授業での使用時や休み時間以外は閉館していますが、昼休みの時間 は、図書委員会が中心となって貸出作業を行っており、自由に利用し図書に親しむことができ る時間となっています。</p>
19	<p>P 7 （ほかの所と重複するかもしれませんが、ここにもほしいかと思いましたが。） 市立図書館におけるこども読書活動の推進</p> <p>読書運動を推進するための人材の育成</p>	<p>記載が限定された表現になっていたため、修正を行います。</p>
20	<p>P 8 幼稚園・保育所等における子ども読書運動の推進 P 2 5 保護者への読み聞かせの指導や絵本の選定の知識を行うと同時に研修会や講演会等で得た知識を手渡すことの要 性。子どもが享受できる手助けをする。</p> <p>（幼稚園や保育園では、指導者が技術や知識を得るだけでなく、それをいかに伝えるのがとても重要だと思 います。読書環境推進するには保護者が読書の大切さを認識しともに成長できる、情報伝達できるもっともよい場 所だと思いましたが、ここに記してみました。）</p>	<p>貴重なご意見として承ります。 研修会等で得た知識、情報を保護者に伝達し、幼児期の読書環境の整備を進めていきます。</p>
21	<p>P 1 7 ア 学校図書館を活用した活動について年間計画に位置付け、積極的に学校図書館を活用するよう努める。 （具体的に書いた方がいいのではと思いましたが。）</p>	<p>学校では、総合的な学習の時間等の授業での調べ学習等で、学校図書館の計画的な利用を進 めており、今後も積極的な活動に努めます。</p>
22	<p>P 1 8 ウ 図書館には司書が常駐することが望まれます。 エ 学校図書館にない資料等を受け入れや公共図書館からの団体貸し出しの活用、レファレンスなどが行えるよう日 頃から公共図書館との連携を進め、学習情報センターとしての学校図書館の充実に努める。</p>	<p>ご指摘のとおり、学校図書館に司書を配置できていないことが課題となっています。 司書に限らず、「いつもそこに人が居る」ことを念頭に、魅力ある図書環境づくりに努めま す。 蔵書冊数については、小・中学校ともに国の定める充足率は100%を達成しています。また、 学校図書館に蔵書がない図書については、市立図書館から取寄せ、貸出を受ける連携をとって います。</p>
23	<p>P 1 9 オ、「司書」の記載が抜けていると思います。 オの部分には、「司書のいる学校図書館が望まれます。」が必要ではないかと思ひます。</p>	<p>まずは、学校図書館の専門的職務をつかさどる司書教諭、図書整理員及び支援ボランティア の協力体制をより効果的なものにし、学校の読書環境を整備していきます。</p>
24	<p>P 2 2 ケ 録音図書、あれば記載してもよいと思います。</p>	<p>ご指摘については、オーディオブック（聴く書籍）を追加、修正を行います。</p>
25	<p>P 2 3 エ ペーパーレス本の貸し出しとかは、あるのでしょうか？あれば、記載してもよいかと思ひます。</p>	<p>ご意見を参考に、電子図書等、本計画に記述のない事柄についても、利用される方のニーズ をとらえた取組が進められるよう努めます。</p>

No	寄せられた意見	市の考え方
26	<p>全体を通してですが、施策の具体例が乏しく、具体的な活動があまり見えないように感じました。市図書館の読書活動については、その具体的な活動報告が多く記載されていて積極的な活動がわかりました。施策と方向と取り組みあたりに具体的に取り組みやこれからの方向が記載されていれば、方向としてより具体的に組みまなければならないことが明確化されるような気がします。</p> <p>読書推進活動は、家庭・地域・学校・図書館が連携協同、連携して行うものであると思うので、そこだけに具体的な活動を求めるものではないと思いますが、例えば、移動図書館の巡回場所を増やし、より積極的に地域に向向っていくことが必要だと思いました。公民館（図書室がない公民館もあると思いますので）や学童保育室、保育園幼稚園等に出向きそこで本の貸し出しを行うのはもちろんですが、場所によっては、お話をするなどして積極的に本と触れ合う時間を子どもたちが持てるような取り組みを望みます。図書館から遠いほど貸し出しサービスを受ける利用者（子供は特に）が少なくなるとは思います、そのような利用条件の格差をなくす上でも考慮する必要があります。</p> <p>さらに、学校では読書環境や図書館環境を整えることは大切ですが、良い本や資料があっても手に取ることが無ければ子どもたちは本に触れることができません。積極的に働きかける授業の一環として、ブックトークやビブリオバトル・読書会などの機会を作るなどして興味付けをすることも具体的な方法として取り組んでよい方法だと思います。本を通してコミュニケーションを行い人と関わることで読書の良さや楽しみを知るきっかけになるとは思います。</p> <p>また、それらを行うには家庭・学校・図書館・幼稚園・保育所それぞれすべてが一体となって市全体で取り組めばより大きな読書推進活動になるとは思います。</p> <p>施策体系では家庭・学校・図書館・幼稚園・保育所それぞれが互いに連携し合って活動推進することになっているように思いますが、それらをまとめる教育委員会（この部署であるのかどうか分かりませんが）が日高市全体で取り組む読書活動の取り組みが一つ（目玉が）あってもよいと思いました。子どもだけではなく大人の読書離れの問題でもあると思います。</p>	<p>ご意見のとおり、読書推進活動は、家族・学校・図書館等が連携して取り組むことが大切だと考えます。子どもの読書活動が豊かなものになるよう計画の取組を進め、今後も連携、協力して基本目標の実現を目指します。</p> <p>ご指摘の移動図書館の巡回場所については、新たな場所の検討を行っていきたくと考えています。また、子どもの読書環境の格差をなくすための取組として、市内全ての小学校において、おはなし会、ブックトークを実施して、全ての児童が本に出会い、読書の楽しみを知る機会を得ることができるよう努めるとともに、市立図書館が遠くても読書することができる環境を整えていきます。</p> <p>中学生等のヤングアダルト（YA）世代には、平成27年よりビブリオバトルを開催、令和元年よりYAを対象とした「はりねずみの本棚」を設置、ブックリスト「ヤンちゃん通信」を市内中学校に配布、令和3年より中高生の図書委員のオススメの本を展示する一箱本棚等の取組を進めています。これらの取組は読書環境の整備に効果的であるとされており、今後も継続して実施していきます。</p>
27	<p>P1～2 第1章 計画策定の趣旨 1 計画策定の目的</p> <p>ここには、読書の意義、計画策定の背景、国・県・市の動向、計画年数まで書かれていますが、結局目的は何なのかがよくわかりません。「第1章計画策定の趣旨」では、意義、背景、動向等を項目立てて述べた上で、目的を明記してほしいと思います。</p> <p>その目的も、「〇〇な子どもを育成するため」という教育行政側の目線ではなく、例えば「子どもの〇〇を願って」というように、子どもの育ちを支援する目線で書いていただきたいです。</p>	<p>ご指摘の点を踏まえ、再度確認し、修正を行います。</p>
28	<p>P5～</p> <p>第2章と第3章は入れ替えたほうが良いように思います。第2次計画を振り返ってから第3次計画に入っていく方がわかりやすいです。</p> <p>資料26ページにある施策体系を前にもってきていただきたいです。また、できれば計画の位置づけを明確にするために、子どもの読書活動推進法、県の計画、日高市教育振興基本計画との関係性を示す図を載せてほしいです。</p>	<p>ご意見を参考とさせていただき、再度確認し、修正を行います。</p>
29	<p>P11～</p> <p>11ページからのアンケート結果は、現状のデータとして第2次計画策定以降における取り組み・成果と課題の章にもって来たらどうでしょうか。新しい計画を読み進める途中でグラフとかが出てくると流れが分断されてしまいます。</p>	<p>ご意見を参考とさせていただき、再度確認し、修正を行います。</p>
30	<p>P9～</p> <p>各項目に【現状及び課題】と【施策の方向と取組】が書かれていますが、その二つの内容が混在してしまっています。例えば、17ページ、20ページ、22ページの【施策の方向と取組】の文章では、「～しています。」 「～が必要です。」 「～が求められます。」 というように現状や課題が書かれています。文章の整理が必要だと思います。</p> <p>（似た書き方をしている坂戸市の計画をご参照ください）</p> <p>【現状及び課題】と【現状と課題】どちらかに統一してください。</p>	<p>ご意見を参考とさせていただき、再度確認し、修正を行います。</p> <p>【現状及び課題】は、【現状と課題】に修正します。</p>

No	寄せられた意見	市の考え方
31	<p>P18 ウ 学校図書館の施設整備 「いつもそこに人（司書等）がいることが望ましい」と書いてありますが、施策の方向と取組として具体的な記述はありません。司書を増やす取組はされるのでしょうか。</p>	<p>ご指摘のとおり、学校図書館に司書を配置できていないことが課題となっています。司書に限らず、「いつもそこに人が居る」ことを念頭に、魅力ある図書環境づくりに努めます。</p> <p>蔵書冊数については、小・中学校ともに国の定める充足率は100%を達成しています。また、学校図書館に蔵書がない図書については、市立図書館から取寄せ、貸出を受ける連携をとっています。</p>
32	<p>P19～ 市立図書館の取組みについて この計画の対象には高校生も入っているはずですが、市立図書館のところで学校との連携とヤングアダルト図書ぐらいにしか触れていません。情報リテラシー、ジェンダー、政治参加、進路等に関する図書の収集や情報提供の充実などに取り組んでいただきたいです。</p> <p>22ページにバリアフリーの読書支援について書かれていますが、外国籍などの子どものために、日本語に親しむ図書や母国語で読める図書の収集や関連する支援を記述してほしいです。</p> <p>電子図書導入の検討について言及されませんか？</p>	<p>情報リテラシー、ジェンダー、政治参加、進路等に関するヤングアダルト（YA）を対象とした図書の収集や情報提供は、「はりねずみの本棚」で実施しています。「はりねずみの本棚」に関する内容を追加、修正します。</p> <p>バリアフリーの読書支援については、通常の印刷された本を読むことが難しい特別なニーズのある子どもを対象とした支援についての取組となっています。</p> <p>ご意見を参考に、本計画に記述のない事柄についても、利用される方のニーズを捉えた取組が進められるよう努めます。</p>
34	<p>図書整理員さんの復活、ありがとうございます。当たり前にあったものが無くなって、図書ボランティアだけで図書、読書環境を維持するには限界がありました。子どもたちの読書環境は、図書整理員さんの活動がとても大きいと感じています。無くしてはならないと切に願います。</p> <p>読み聞かせボランティアとして、昼休みに小学校へ伺うと、子どもたちは楽しみにしていて、夢中で聞いています。</p> <p>小学校・中学校ともに、図書室がもっと開かれた場所になり、地域に開放することが可能であれば交流の場にもなり、子どもたちの居場所にもなるという話しが出たことがありました。地域の方と顔見知りになることは、防犯にもなり、災害時の助け合いにつながると思います。</p>	<p>読み聞かせボランティアとして活動いただき、ありがとうございます。学校では、読み聞かせをきっかけに図書に親しむ児童が増えた、といったような声が多く聞かれているようです。また、ご指摘のとおり、図書整理員の配置により、学校図書館の読書環境の向上が図られたと認識しています。</p> <p>地域への開放については、ご意見のとおり様々なメリットもあります。管理面とあわせ今後の課題とし、開かれた読書環境作りに努めます。</p>
35	<p>図書館の本の紹介は、学校に訪していただき、1年生から6年生まで、それぞれの学年に向けて関心のあるもの、出合って欲しいものを紹介して欲しいと思います。出合う本によって、救われることもあります。</p>	<p>小学校3年生には、本の紹介を行う「ブックトーク」を実施しています。</p> <p>また、全児童には、おはなし会で訪問した際に本の紹介を行っています。このおはなし会で配布した本のリストを持った児童が図書館に来館するなど、成果をあげています。他にも、全児童に向けて、年2回お薦めの本のブックリストを作成し、配布しています。今後も全ての子どもに読書の喜びを伝えられるよう取組を進めます。</p>